



綿陽庄原友好小学校の元気な子どもたち



末永い友好交流を約束

●面積 20、249 km²
 (広島県の約2.4倍、庄原市の約16.2倍)
 ●人口 約520万人
 ●地形 西北部は山地と丘陵地。一般的高度海拔500m以上。中部と東南部は浅い丘陵で、平均海拔500m以下。
 ●気象 亜熱帯気候。冬は温暖で霜期は短く、春の訪れは早く夏は長い。年平均気温は約16℃。年間降雨量は約980mm程度。

綿陽市の概要



綿陽市の位置図

●観光資源 富樂山、三江ダム、報恩寺、李白の故郷、猿王洞、羅浮山温泉、千仏山、白水湖、大廟山、魯班湖、李白と杜甫の合祠等
 ●工業 電子工業が中心。国内テレビ市場シェアの20%超を占める長虹電子を筆頭に、多くの企業がある。また、電子科学開発区などの中国最先端技術の集積地でもある。



華麗な中国舞踊で歓迎



新市の市章を披露



大きなビルが立ち並び綿陽市のまち並み

綿陽市は、「一心為人民」としての理念があり、大いなる将来を感じさせられました。合併を果たして躍進力をつけた庄原市も、負けずに「一心為市民」として知恵と勇気で前進したいと願っています。

最初の綿陽庄原友好小学校の訪問では、子どもたちの表情が豊かで、歓迎式でも先生の言う事をよく聞き、まとまりがとれていました。しかし、教室での授業風景を覗いたとたん、驚くほどの無邪気な子どもたちの顔になり、私はなぜか安心しました。そして、訪れた場所は女性も堂々と自分のポジションを得て活躍し、大いに刺激を受けました。今回で4度目の訪中でしたが、農村風景など今でもゆっくりに時間が流れているように感じられる一方で、性急な熱いものがあふれているとも感じました。

相互理解を深める旅



高野町 藤元恵里子さん

綿陽市に到着した訪問団は、行政府にあたる綿陽市人民政府と、議会にあたる人民代表大会を表敬訪問し、唐利民市長ら関係者から熱烈的な歓迎を受けました。綿陽市の唐利民市長からの歓迎のあいさつに対し、滝口市長は、「両市の

交流を深めた3日間

10月31日から11月2日までの3日間、庄原市の公式訪問団と市民友好訪問団20人が、中国四川省の綿陽市を訪れました。綿陽市とは、旧庄原市が1990年に経済技術友好協力協定を締結。これまでに10年以上、行政関係者による公式訪問に加え、両市の小学生の相互訪問などにより、友好を深めてきました。合併に際しても、友好関係の継続を確認しており、今回が新庄原市としてはじめての訪問になりました。

友好と交流の絆を深める 友好訪問団が綿陽市を訪問

友好関係の発展を願うことはもちろん、新たな友好の歴史を築くため、庄原市民とともに情熱を傾注したい。」とあいさつ。なかなか雰囲気懇談が行われ、引き続き友好交流を深めていくよう約束が交わされました。

2日目には、友好協力協定10周年記念事業で建設された綿陽庄原友好小学校を訪問。到着した訪問団に、児童の皆さんから友好を示す赤いスカーフがプレゼントされ、滝口市長から、「天を敬い、人を愛する」という意味の「人愛天敬」の書が贈られました。この学校は、IT教育に重点を置いた先進的な学校で、視察の中では、パソコンを使って真剣に授業を受ける児童の姿がありました。その後は、綿陽市の目覚ましい技術躍進を支える



訪問団と綿陽市関係者で記念撮影(綿陽庄原友好小学校にて)



経済技術開発区、また上野総合公園の休憩施設「富樂山公園」なども視察し、有意義な3日間となりました。

綿陽市を訪れ、建造物などに歴史の長さを感じ、また人との交流の中では、長江の流れのようなおおらかさと、歴史を重んじる国民性があると感じました。視察では、工業地帯として電子関係で驚くほど発展している地域もある中で、核となる産業をもとに、他の特色にも着目して観光資源の掘り起こしを図り、それらを最大限に活用しながらさらなる発展を目指す姿勢が印象に残りました。



総領町 山地康生さん

庄原市でいうと、節分草のよう小さな花が交流人口を増やしている例がありますが、何かひとつの資源を核として特色づけながら目玉として育て上げ、それを基礎として展開していけば、産業の発展につながっていくのではないかと考えています。今後の交流では、庄原市の基幹産業である農業をはじめ、発展や振興を目指す産業に重点を置いていくことも、一つの手法ではないかと感じています。